

お風呂場や洗面所、トイレには いろいろな危険が潜んでいます

～4,000人に調査。転倒や転落、打撲、やけど、発火などいろいろな事故が発生しています。
63%の人がお風呂場などでケガをしそうになった、ケガをした経験あり～

主な事例

入浴剤で滑って転倒 141人

- 入浴剤を使用したところ、浴槽から出ようとした際に滑って顔まで湯船に沈んだ(保湿成分入りの入浴剤)。
- 粒状の入浴剤が十分に溶けていなくて、子供を抱っこしているときに滑りそうになった。

入浴剤で滑って転倒する事故は、子供から高齢者まで幅広く起きています。保湿成分入りのしっとりタイプの入浴剤など、種類によっては滑りやすくなることがあります。入浴剤の溶け残りに注意するとともに、浴槽への出入りは慎重にしましょう。



アロマキャンドルなどでやけど 17人

- アロマキャンドルを使っていたら浴槽のふちが溶け始め、あわてて消そうとしてやけどしそうになった。
- アロマキャンドルを使っていて、ろうそくが消えた直後に移動させようとしたらやけどした。

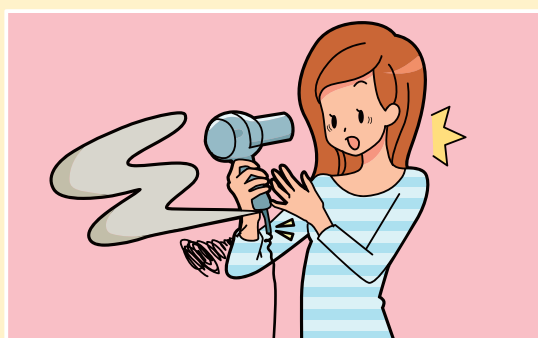
アロマキャンドルなど、火を使う製品はたとえ小さなものでも危険が伴います。また、浴室内にガラス製品を持ち込むと、破損した際にケガの原因になりますので、十分注意をしましょう。



ドライヤーの発煙・発火 268人

- 20年くらい使用している古いドライヤーを使用していたら、ボンという軽い爆発音がして焦げ臭くなった。
- コードがねじれていて、コードの付け根から灰色の煙が出てきた。

長期間使用したドライヤーは、コードの一部が断線したり、内部にほこりがたまっていることがあり、場合によっては大変危険です。異常な音、におい、振動、熱などを感じたら、直ちに使用を中止してください。



イラスト/urazou

お風呂場での注意

- ★浴室での事故は、洗い場で滑って転倒することにより、骨折や打撲をするケースが多く、手すりの設置など転倒を防ぐ工夫が必要です。
- ★浴室の床にせっけんや洗剤などが残っていたため、滑って転倒した事例も多数報告されています。浴室では、足元に注意するなど慎重な動作を心掛けることが大切です。
- ★特に入浴剤を利用するときは、転倒に注意しましょう。

事故に遭われたとき、商品やサービスに原因があると思われる場合には、消費生活センターなどの相談機関に申し出ましょう。

東京都消費生活総合センター

☎03-3235-1155 またはお近くの区市町村の相談窓口

調査結果のより詳しい内容については、下記のサイトをご覧ください。
「くらしの安全情報サイト」<http://www.anzen.metro.tokyo.jp/>
「くらしの安全情報サイト」では、商品やサービスを中心とした危害・危険・安全性といった情報を提供しています。



「お風呂・トイレの危険事故防止ガイド」は「くらしの安全情報サイト」からダウンロードできます。

このページの内容についてのお問い合わせ先

東京都生活文化局消費生活部生活安全課 ☎03-5388-3082

このページは、東京都と東京都生活協同組合連合会の協働事業により掲載しています。